

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 9 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24603002

研究課題名(和文)被災者の記憶に残る地域の伝統的生活文化の認識と再生・継承に関する研究

研究課題名(英文).A Study on the recognition and the reproduction, inheritance of traditional

研究代表者

池邊 このみ (IKEBE, KONOMI)

千葉大学・園芸学研究科・教授

研究者番号：50620366

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、被災地の地域住民に愛されてきた風土や、風景、民話や絵画、歴史に残る農山漁村の独自の生活文化の構成要素を洗い出し、地域の郷土性を認識させる地形や、風土、伝統技術、伝統芸能、伝統行事を行う広場や社寺境内地などの風致等、被災地の生活文化空間の特色を明確にし、保全活用計画を検討ことを目的に実施した。

研究成果としては、被災者の生業や住生活、集落での四季折々の生活行為と実施場所について詳細に調査をおこなったことにある。それらをもとにして、地形、有形無形の各種の文化財の存在の履歴、生活歳時記で活用してきた空間をコミュニティの中にあつた村社を中心とした集落の空間を再生する保全活用図を作成した。

研究成果の概要(英文)：In the study, we included three parts of contents below

To investigate the independent living culture of the rural districts from components of climates, culture which had been loved by the local inhabitants at the disaster area and historic life culture from the remained scenery, folktale and pictures. Clear the characteristics of life and culture in the area. Not only scenery but also include terrain can be recognized as local signature, traditional skills, traditional talent, open space where can hold traditional events and scenery in temples and shrines. Consider methods to reproduce the disaster area. We found out the sketches can be reflected by victims' childhood till they grew up which is not include of the tangible cultural property and the immaterial native culture. In addition, based on these information, we made a chart of maintenance and utilization of the space that enabled regenerate area community centered on identity and shrine of the village before the damage

研究分野：環境造園デザイン学

キーワード：被災地 生活文化 生業 住生活 集落 地域アイデンティティ 持続可能性 地域再生

1. 研究開始当初の背景

東日本大震災の被災地は、弥生時代以降、蝦夷から来た民族と関東からの民族が混じり、また、かつて100年にわたり藤原京として栄え平成23(2011)年には世界遺産となった平泉も近く、各種の伝統文化や郷土文化、民族文化の歴史が数多く残る地域である。

地域の地形的特徴や風景、アイデンティティとなるランドマーク等を絵画や古地図を手掛かりにする研究は、浮世絵等昔の風景との比較研究として行われている既存研究がある。しかしながら、それらは景観や古地図に限られたものしかなく、本件に関連した学術論文はほとんどみられない。

平成19(2007)年より始まった文化庁の歴史文化基本構想においては、地域の風物や伝統芸能等を地域の広義の文化財保護を目的として、地域の住民への聞き取り調査等を行ない、有形無形の文化財を文化財群として総合的に把握することが試みられており、平成20年度(2008)から3カ年のモデル事業として全国20市町村で実施されたが、今回の被災地内ではモデル市町村に選択されている市町村はなく、また、モデル事業は震災対応の予算のため打ち切られている。本調査は、有形・無形、指定・未指定を問わず、地域に存在する様々な文化財を、歴史的、地域的関連性等に基づいて、特定のテーマや地域に伝わる民話等において関連性のある文化財を一体としてとらえ、地域の歴史や文化を語る重要な資産として、総合的に把握し、可能な限り再生手法を検討していこうとするものである。

本研究では、従来、民話や郷土誌等や博物館展示等だけで、部分的に継承されてきた地域独自の生活の歴史・文化の価値を子孫に継承すべき資産として、保全・再生するという価値づけを明確にすると同時に、被災した市町村の地域独自の生活文化として再生し、被災地の集落の復興の力とするという点に意義がある。地域によっては容易に再生できないものも想定されるが、数百年から千年に一度という今回の津波によって、滅失した地域に刻まれたその間の生活の歴史を、何らかの形で再生し、継承する意義と必要性が十分にあると考える。

2. 研究の目的

本研究では、①被災地の地域住民に愛されてきた風土や、風景、民話や絵画に残る歴史、農山漁村の生業に伴う独自の生活文化の構成要素を洗い出し、②景観のみならず、地の郷土性を認識させる地形や、風土、伝統技術、伝統芸能、伝統行事を行う広場や社寺境内地等の風致等、被災地の生活文化空間の特色を明確にし、③それを再生する手法を検討するための研究として実施した。

調査期間については、当初は3年と設定し、1年目には現在被災地に残存する有形無形の文化財群をできる限り把握することを目的として実施し、関連文化財群として捉えられるテーマを設定を行い、モデルとなる地域設定を行った。2年目には、1年目に設定したテーマや地域について、被災者にヒアリングを行うことにより、地域のアイデンティティとして継承すべき要素(風景、産物、技術、民話、工芸品等)やその関係性についての検討を行った。3～4年目には、関連文化財群として残すべきもののうち、再生可能なもの、保全すべきものを選択し、その保全・再生手法について検討を行った。

3. 研究の方法

本研究の実施にあたり以下の手順で調査を実施した。

(1) モデル市町村の選定

本調査研究においては、当該市町村の教育委員会の協力が不可欠であること、また、現状では、高台移転等において遺跡が発掘される等の問題が生じていることから、文化庁の協力を得て、比較的被災状況が軽く文献資料等が多く残る市町村、または、被害が甚大であっても、地域独自の伝統行事等の実施状況が把握されており、その再生が地域の活力のために必要であると認められる市町村を選定した。主要な調査対象としたのは、岩手県陸前高田市である。

(2) 文献調査・現地調査

モデル市町村において文献や地図、写真等の資料収集を行い、有形無形の文化財群の所在地等とともに、その被災・損失状況等を調査し、再生の可能性等について現地確認を行った。

文献調査・及び現地調査においては、研究チームとして研究代表者研究室所属の大学院生(3名)と研究協力者研究室所属の大学院生(1名)が現地に同行し、現地調査を実施した。特に重視したのは、過去の市史における土地の履歴の記述、および民話などである。いわゆる有形・無形の文化財の資料はすでに取得済みであるので、本調査では住生活や生業と共に発生する行為や実施される空間(家屋、庭、集落の道)把握をおこなった。特にコミュニティの中心として機能してきた神社境内等で実施されてきた年中行事をできるだけ多く把握した。調査対象地である陸前高田市は、集落によって中世から近代まで集落組成の時代や、生業も異なるが、本研究ではすべての集落を対象としたものを調査している。

調査初期段階で文献調査と現地調査の結果から、関連文化財群のテーマ設定を行い、地域の生活文化の伝統や歴史を伝え、復興市町村のアイデンティティとなり、住民にとっても活力となるものの選定に注力した。復興計画においては、現在、巨大な防潮堤や、高

台を通る道路、避難タワー、斜面集合住宅等が計画に盛り込まれている所も多く、これらの土木・建築構造物を、なるべく感じさせないことや、幼児や子供視線から見てこれらの構造物の空間的圧迫感や遮蔽感を和らげ、従来からあった集落の空間スケールや各種の空間を再生することが必要である。

なぜなら、被災集落の従来あった道の幅や家並の高さ、社寺境内等の鎮守の森の高さ等をはじめ、地域には長年親しんできたスケール感や景色等があり、それらを防災的対応で難しいこと以外でできる限り再生することが、被災者の心のケアになるとともに、今後も住み続けていく空間として親しみ、心の拠り所となる空間が必要と考えるからである。

今回の調査においては、被災者の心象風景や、幼少時から現在までの多様な集落における四季折々の歳時や神楽、盆や正月等の伝統行事の記憶、地域のお地藏様や庚申様等、写真や地図等を用いて把握した。ヒアリングについては、教育委員会、地域の行事等に関わる世話役等に協力を求め、事前に収集した各種の行事に関する資料等を提示しながら、複数の住民と共に、地域の様々な生活行事をイメージとして再現できるようにヒアリングで得た内容を絵で表現し次回のヒアリングで住民に確認をするようにした。

4. 研究成果

(1) 生活文化の枠組策定と構成要素の把握

陸前高田市全域の生活文化の構成要素把握とそれらの分類を行った。分類にあたり、例えば、「住まい」「農業」といったその土地・場所に定着したもの＝【不動産】と、「衣服」や「民話・口承」のような土地との関わりが薄いもの＝【動産】に大別された(図1)。

ちなみに、動産－不動産という仕訳は文化庁の歴史文化基本構想でも使用されているものである。更に、生活文化の構成要素を見てみると、動産－不動産のほかに、「衣食住」や「生業」のように生活上必要なもの＝【実用】と「儀礼」「芸能」のような信仰・娯楽的性格のもの＝【象徴】の軸を見出すことができた。この2軸を用いて各構成要素をマッピングしたものが図2である。このうち、【不動産×象徴】の象限に位置する儀礼・信仰・芸能等は、比較的よく継承されてきたものの、不動産要素であるため空間変容の影響を受けやすく、震災後の帰趨が懸念される。そのため、本研究では特に「年中行事」「神社祭礼」に焦点を絞り、内容や空間との関わりを明らかにした。

さらに被災地における生活文化の要素の把握及び記録、またそれらの一部を復興した新しい集落の中の各所に取り込むことで、集落のアイデンティティの意識の醸成や、地域のコミュニティの「居心地」

を取り戻すことに意義がある。社寺境内地にあった一本松や、お地藏様、また、地藏や庚申塚のある道のスケール等の再生を検討した。もちろんこれらの再生計画は、予算も必要であることから、それを実現することは難しい。

最終年度においては、2カ年の調査に基づき、地域のアイデンティティとなり、将来的に子孫に継承すべき関連文化財群についての報告会を開催した。今回の検討においては、地形や風土等自然に根差すものから、芸能や工芸、伝統行事等に至るもの全体を関連文化財群としてとらえることから、それらの保全再生にあたっての、地元での認識や、保全・再生・伝承に関わる合意形成が重要となる。報告会は、小さな集落単位で行い、地元住民の意志を十分反映できることに留意した。

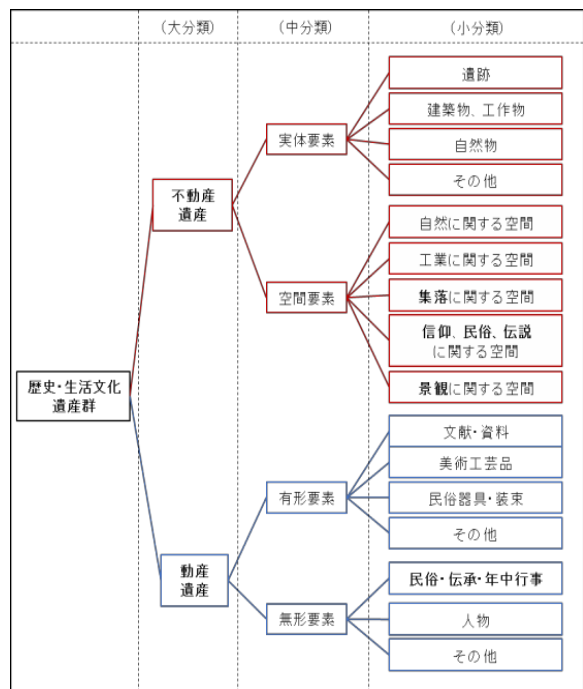


図1. 歴史・生活文化遺産群の分類

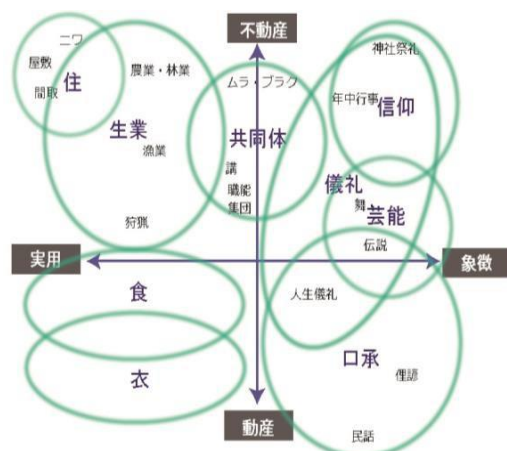


図2. 伝統的生活文化の構成要素

以下の表1は、表2に列挙されている集落における各種儀礼の主体別の集計である。調査対象地である陸前高田市は、農林水産業および工業・サービス業など多様な産業の分布する地域であるが、非常に家族が重視されていることが大きな特徴である。そのため、自宅の家をはじめとする自宅回りの屋外空間がその儀礼の執行場所となっており、復興住宅や高台移転による戸建て住宅地においては、それらの空間への配慮が全くみられないため、表2に見られる多くの年中行事はそのほとんどが消滅することが予想される。

表1 行事を行う主体別の集計

実施主体	行事例	
家族等	元朝詣り・若水汲み・爪切り湯など	81
共同体	悪魔払い・神社例祭・七夕など	30
講	地藏講・恵比寿講・庚申講など	17
		128

表2. 共同体による行事-神社祭礼

	場所	行為													
		家内	屋外	集落	高山	行屋	社寺	飾る	機式	安息	飲食	集う	参詣	歌舞	芸能
門松・小年籠・正月飾	1月 元旦	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
元旦・ミダマサマ	1月 元旦	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
元朝詣り	1月 元旦	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
明神(明神袋・オドッコ)	1月 元旦	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
若水汲み	1月 元旦	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
仕事はじめ	1月 2日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ミダマおろし	1月 5日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
五元日	1月 5日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
爪切り湯	1月 6日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
七草	1月 7日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
山入り	1月 8日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
お餅ふぐし	1月 9日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
農はだて	1月 11日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
オチギ立て	1月 11日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
初山の神様	1月 12日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ミズキ迎え	1月 13日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
お餅とり	1月 14日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
栗穂・栗穂立て	1月 15日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
屋根置き	1月 15日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヤツカガシ	1月 15日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
成り木責め	1月 15日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小正月の年取り	1月 15日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
与惣兵衛の年越し	1月 15日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ネゴモの根っこ掘り	1月 15日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
初寺参り	1月 16日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
お十八夜	1月 18日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
二十日正月	1月 20日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
二十三夜	1月 23日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
厄投げ	1月 30日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
戸窓書き	1月 31日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小松の年取り(正月籠)	1月 31日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
釈迦入滅	2月 15日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
カラスの年取り	2月 1日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小松の正月	2月 1日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
春灸日	2月 2日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
節分	2月 3日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
桃の節句	3月 3日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
潮干川	3月 3日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
十六童子	3月 16日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
春の祈禱	3月 16日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
春分・彼岸	3月 21日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
卯月八日	4月 8日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鯉揚げ・鯉出し	4月下旬	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
端午(菖蒲)の節句	5月 5日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
お十八夜	5月 18日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
八十八夜	5月 21日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
苗圃め・水の初日	6月 1日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
蚕の糸	6月 1日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ムケの節句	6月 1日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
農神様の作回り	6月 15日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
夏越の大祓	6月 30日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
お茶立て	7月 7日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
迎え盆・盆入り	7月 13日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
寺参り	7月 14日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大施餼粥	7月 15日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
送り盆	7月 16日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
二十日盆	7月 20日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
みそか盆	7月 30日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
八朔	8月 1日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
菊の節句	9月 9日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
お明月様	8月 15日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
十六童子	9月 16日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
お十八夜	9月 18日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
秋分・彼岸	9月 23日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
お刈り上げ	10月 1日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
十月仏	10月初旬	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大根の年取り	10月 10日	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○

表2は、各種行事のうち最も盛んに行われている神社祭礼によるものを1月から12月まで記述し、それらの実施場所とそこでの行為を示したもののうち、掲載の関係から1月10月までのものを掲げたものである。

これら各種の住民の居住生活、生業、祭りなどに呼応して実施されてきた各種の行事を先に述べた歴史文化基本構想で用いている、動産、不動産による仕分け、また、それらの行事との意味合いとして象徴性を重視したものなのか、実用性を重視したものかを鑑み、伝統的生活文化の構成要素として、模式図に整理したものが以下の図3である。



図3. 陸前高田市の伝統的生活文化の構成要素

(2) 保全・再生計画の策定

現地で保全・再生・伝承可能な資源について、歴史文化基本構想の分類をもとに①黄金文化を支えた影の英雄、②「岩手湘南」の特色ある地場農林産業③リアス海岸に恵まれる漁文化④高田松林と防災文化⑤気仙大工と都市発展⑥東北特色の信仰と民俗という6つの独自の仕分けをし、それらについて調査研究、保存管理、空間整備、情報公開、人材養成の5つの視点から保全計画を策定した。

加えて、市内を空間的・文化的な特性により区域分けし、4つの歴史文化保全活用区域の設定および各エリアの歴史文化遺産保存活用計画図を作成した(図4.5)。既存及び被災状況を踏まえ、観光資源や景観、交通の分析を行い、被災した歴史文化遺産の活用における課題抽出、公園緑地の挿入とネットワーク形成、交通システムの整理、サービス施設の配置などについて検討をおこなった。

保全活用図については、市内全域を地形や生業の特性などから、大きく4つの圏域に分け、圏域ごとに、被災状況や有形無形の文化財の分布状況、地域の文化履歴、ヒアリング等で把握した日常生活や生業に関わる生活文化、年中行事、景観などの評価軸により作成した。以下に2つの地域のものを示す。

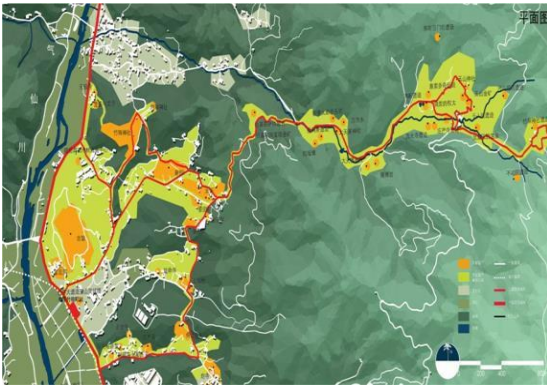


図 4. 玉山金山区域歴史文化遺産保存活用計画
図



図 5. 箱根山麓-小友浦地域歴史文化遺産保存活用計画図

(3) 結語

本研究では、被災者の従前の身の回りの生活空間に着目し、そこで展開されてきた住民の生活に関わる多様な生活行事を把握した。このような研究は、従来、民俗学分野と文化財分野に分かれて実施されてきており、生活行事の行為空間に注目した研究は殆どみられない。東日本大震災の被災地域は、多くの地域で住宅などの上物のみならず地形そのものの改変を余儀なくされ、その後の復興計画においても、残された地形に防潮堤や道路、鉄道、住宅地形成のために、大規模な造成などが余儀なくされている。緊急、かつ生活優先という号令のもとに策定された画一的な計画により、地域固有の生活文化や歴史は無視されてきた。このような配置計画で地域が再生される限り、被災直前まで細々としかし、脈々と地域で伝承されてきた習慣や生活行事の多くは失われ、その再生の余地は殆どない。実際に5年たった現在でも高台移転地として完成し従来のコミュニティを取り戻した地域は数少ない。持続可能な真の復興、また、陸前高田市でいえば1200年を超える地域の歴史を、人工的に封印するという権利が果たして復興計画にあるのかどうかがかが問われている。

本研究成果は、デザイン学における被災地の生活空間としての計画をランドスケープと居心地、そして幼児にとっての身近な生活空間のあり方を踏まえて検討を行ったものである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 (計 5 件)

1. Konomi, Ikebe, Chieko, Msanabe, Yoshihide

, Yasuhara, Shinya Kobayashi (2014) Research on Local Communities and the Role of Shinto Shrines in an Area Hit by the Great East Japan Earthquake — Case Study of Rikuzentakada City The 14th International Landscape Architecture Symposium of China, Japan, Korea 2014, Sichuan China P. 14~19 (abstract 査読有)

2. Chieko, Msanabe, Konomi, Ikebe, Ayumi, Kemyama (2014)

Study on the Characteristics and Effects of Ritual Landscapes in the “Hatsuuma Festival” at Takekoma Shrine, Rikuzentakada City

The 14th International Landscape Architecture Symposium of China, Japan, Korea 2014, Sichuan China P. 30~36 (abstract 査読有)

3. Chenyu Wang, Konomi, Ikebe (2014) The General Planning of Historical Culture in Post-disaster Areas: Rikuzentakada, Japan Case Study

The 14th International Landscape Architecture Symposium of China, Japan, Korea 2014, Sichuan China P. 102~36 (abstract 査読有)

4. Hun Yuri, Konomi, Ikebe (2014) A study on a festival utilizing landscape characteristics of the homeland of immigrants, and on the inheritance of local culture

The 14th International Landscape Architecture Symposium of China, Japan, Korea 2014, Sichuan China Korea. P. 7~12 (abstract 査読有)

5. 草川 功, 瀧向 透 大震災からの復興途上地域での保育園と小児医療連携の今後の在り方—大都市を比較して 小児保健研究 (査読有, 掲載待ち)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

池邊 このみ (KONOMI, Ikebe)

千葉大学大学院・園芸学研究科・教授
研究者番号：50620366

(2) 研究分担者

草川 功 (KUSAKAWA, Isao) 聖路加国際大学・看護学部・教授 研究者番号：24201052

(3) 連携研究者

安原 喜秀 (YASUHARA, Yoshihide)
東海大学大学院・人間環境学研究科・客員教授
研究者番号：50056082